# 鴻池新田会所
# 敷地内マップ

## ❸ 井路川舟展示場

井路川舟（三石積）は、新田内に造られた井路（水路）を通り、穀物や荷物を運んでいた小型の川舟です。

## ❹ 乾蔵

会所屋敷地の西北にあることから乾蔵と呼ばれています。屋根は置屋根で、切妻造桟瓦葺の土蔵。用途は明らかではありませんが荷摺木があることから一時的に穀物類の貯蔵が行われていたと考えられています。

## ❺ 道具蔵【重要文化財】

元文5年（1740）建設の切妻本瓦葺の土蔵。主に農耕具を保管していたと伝えられることから道具蔵と呼んでいますが、北室に荷摺木がめぐらされていて、米などの穀物も貯蔵できるようになっていました。明治時代には、水防用倉庫として利用されていました。

## ❻ 米蔵【重要文化財】

会所の土蔵群の中で最大規模の切妻造本瓦葺の土蔵。享和2年（1802）に規模を拡大して建替えられました。東面には入口を2ヶ所構え、内部は南北二室に区画されています。“二千石蔵”とも呼ばれ、新田内で収穫された多量の年貢米が納められていました。

## ❼ 文書蔵【重要文化財・非公開】

天明6年（1786）建設の2階建て、置屋根で切妻造桟瓦葺の土蔵。内部には、鴻池新田会所に関する膨大な書類が納められていました。

## ❷ 船着場跡

この船着場は、会所に舟で持ち込まれたり、運び出したりする物資の荷揚げをしていた場所です。たとえば、新田でとれた米を船着場で荷揚げして米蔵に納め、再びこの場所から大坂に発送していたといわれています。

現在の船着場跡

## ❶ 庭園（東方庭園）

会所敷地の東側に作庭された、弁天池を中心とする池泉（ちせん）回遊式の平庭（面積約2,600㎡）です。全体としてマキ・クス・マツ・ツバキ・カシ・サツキ類の植え込みが多く、北側は起伏のある地形にして高木が多数植栽されています。本屋座敷から借景となる生駒山を望み見れるよう、座敷から東側中央部の樹木は低く抑えされています（現在は、マンション開発により生駒山を見ることはできません）。

## ⓫ 弁天池

瓢箪型の弁天池は石組の護岸を施し、中央西よりに橋が架かります。東北部に藤棚を置き、東端に樋門を設けて東側周濠に続いていますが、現在は水の循環はありません。

## ❽ 居宅

建物は明治29年（1896）に第十三国立銀行の出張員詰所となり、翌年鴻池銀行新田出張所として使用。14畳の座敷を板敷の営業室に変え、玄関・土間廻りを受付室とし、カウンターを設置するなどの改築を行っていました。

## ❾ 火の見小屋

冠木門のすぐ近くに位置する小規模な寄棟造の建物です。

明治33年（1900）まで、新田内の農民たちが毎晩交代で大坂方面の火事の見張りをし、異常があったときは今橋の鴻池家本宅にかけつけ、消火にあたったと言われています。

## ❿ 朝日社【非公開】

宝永3年（1706）6月、会所の造営に並行して、周濠外の南区域が社地として整地され、同年9月に天照大神（あまてらすおおみかみ）を勧請して神明社として創建されます。翌年4月には周濠内の現在の場所に社が移されました。後には、新田の開発者である三代目鴻池善右衛門宗利もあわせて祀られました。

明治40年（1907）に新庄の皇太神社と三島の三島神社が合祀され、産土（うぶすな）神社として村の氏神となりますが、昭和10年（1935）に分かれます。現在は朝日社と呼ばれ鴻池家の神社になっています。

重要文化財

男子・女子多目的トイレ　AED　インターホン

●館内の解説を希望の方、施設利用のことでご相談や窓口でのお支払いをされたい方など、御用の方は『火の見小屋』前のインターホンでスタッフをお呼びください。
●貸室利用可能な場所は、本屋、居宅、米蔵、乾蔵、表長屋門となります。場所の詳細は、裏面の利用料金表をご確認ください。